

横浜市立市民病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されること希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	日本心血管インターベンション治療学会内登録データを用いた統合的解析
当院の研究責任者 (所属科名)	根岸 耕二 (循環器内科 部長)
他の研究機関および 各施設の責任者	<p>【代表研究者】 東邦大学医療センター大橋病院 (教授 中村 正人)</p> <p>【共同研究施設】 医療法人 札幌ハートセンター 札幌心臓血管クリニック (理事長 藤田勉) 弘前大学医学部附属病院 (講師 横田 貴志) 茨城県立中央病院 (部長 武安 法之) 山梨大学医学部附属病院 (講師 尾畑 純栄) 静岡県立総合病院 (部長 坂本 裕樹) 富山県立中央病院 (部長 臼田 和生) 草津総合病院 (副院長 和田 厚幸) 大阪急性期・総合医療センター (部長 森田 孝) 松江赤十字病院 (部長 城田 欣也) 香川県立中央病院 (部長 土井 正行) 九州医療センター (医長 村里 嘉信) 沖縄県立中部病院 (部長 和氣 稔)</p> <p>全国の日本心血管インターベンション治療学会に所属する医療機関 (170 施設で実施される)</p>
本研究の目的	<p>日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)では本邦における冠動脈疾患、末梢血管や構造的な心疾患に対するインターベンション治療*の全容を正確に把握するため、各手技の学会登録データベースを構築し(J-PCIならびにJ-EVT/SHD)、定期的なデータ収集を行っており、その集計や解析のシステムを National Clinical Database(NCD)と連携し構築している。また、カテーテル治療を行う医師の中で優れた能力と技術を持つ医師を、心血管カテーテル治療専門医・認定医と認定することにより、診断・治療技術の向上と新しいカテーテル治療法の開発を図り、広く社会に貢献することを目指している。今</p>

	<p>回、その学会登録データベース(J-PCI)に登録された症例の1年予後を観察し、手技の進歩、医療の質向上へ寄与することを目的としている。</p> <p>*インターベンションとは、直径2mmほどのカテーテルと呼ばれる細い管を用いて太ももの付け根や手首の血管から、狭窄・閉塞などの異常のある血管に到達させて治療を行う方法である。カテーテルの中に細いガイドワイヤー(針金)を通し、モルールのようにバルーンやステントを持ち込むことで血管の詰まりを広げることができる。</p>
調査データ 該当期間	<p>2017年1月1日から2026年12月31日までに冠動脈カテーテル治療が行われた症例を対象とし、1年予後までを観察する。</p> <p>研究期間は2017年1月1日から2027年3月30日までの約10年間</p>
研究方法 (使用する試料等)	<p>【対象となる患者さん】 上記期間内に日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)の学会登録データベース、J-PCIに既に登録されている冠動脈カテーテル治療を行った方</p> <p>【利用する情報】 カテーテル治療1年後予後として、死亡(心臓死、非心臓死)の有無、急性冠症候群発症の有無、脳卒中発症の有無、入院を要する出血性合併症の有無、再血行再建術の有無</p>
試料/情報の他研究 期間への提供および 提供方法	<p>当院より直接 National Clinical Database*(NCD)へ登録する</p> <p>*日本国内の臨床データベースを管理している社団法人 詳細は http://www.ncd.or.jp/about/business.html を参照</p>
個人情報の取扱い	<p>利用する情報から氏名、住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
本研究の資金源 (利益相反)	<p>国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)</p>
お問い合わせ先	<p>電話:045-331-1961 担当者:新村 大輔 (循環器内科)</p>